

市長とのかがやきライフトーク

と き：平成19年9月9日（日）
と ころ：武道館 へれんけらあ
対話団体：団塊世代の会・大垣（18名）
対話テーマ：団塊世代の「地域デビュー」について



【対話内容】

【会員】

会員は13名で、経験や特技を持ってみえるすばらしい仲間が集まっています。
昨年、設立に至った基本的な考えは、共有の場所を持ち、人生のセカンドステージを豊かにということです。
定年退職を迎えた団塊世代のみなさんが、いろいろな悩みや不安を持っています。
そういった人たちが仲間となり、何かのきっかけで地域貢献できるような、輝いたセカンドステージを踏み出せるようにと考えています。
「場所」、「きっかけ」、「後押し」というキーワードで地域デビューというのがスムーズにできればと思っています。

【会員】

団塊の世代・可児は26名で、かがやき世代の会・多治見は18名で、団塊世代の会・大垣の兄弟団体になります。
働いているときは地域貢献をしたくても、夜遅く帰ってくるものですから、何もできません。
ところがいざ退職しても、何から手をつけていいかわからない。
今、一番苦勞していることは、団塊の世代の方は、まだ家庭でも大黒柱ですので収入源も持ちながら、地域活動もしながらというバランスを保って地域貢献することです。

【会員】

かがやき世代の会・多治見の作りはじめに話し合ったことは、個人個人の生きがいを探し社会に貢献するのには、我々が何ができるのかということです。

多治見の駅前が投げタバコで散乱しているので、クリーン活動をしようという意見が出ました。

日本一きれいな町づくりということで、単に掃除をするだけではなく、子供たちに大人の姿を見せるとともに、市民が出会うという場になればいいということで行っています。

掃除をすることにより、駅前の活性化になり、さらには市民団体だけでなく、企業等にも参加してもらえよう声かけをしています。

【小川市長】

団塊の世代の方が退職されていくんですが、会社を退職されていく方々というのは、バイタリティ、知識や経験が豊富で、そのような方が不安を抱えて家にいるのは、もったいないですね。

そういう方たちが前向きに活動していただけるのは、ありがたいことだと思います。

社会貢献活動をしていただけるだけではなく、自分自身も生きがいを感じていただけるようなまちづくりをぜひ、やっていただきたいなと思っています。

【会員】

竹墨を作ろうということで、体験型講座を行います。

作って、更に対価をもらえるぐらいになるといいかなと思っています。

もう1回は、駅前商店街をぶらぶら歩いていろいろ気づいたことをワークショップで意見を言い、我々がどう関われるのかということをやってみます。

いろいろ行政や市民団体のお力添えをいただきたいと思っています。

【会員】

塾年式が行われますが、64歳、65歳の方がすでに申し込みされていていっぱいだと聞きましたが、どのようなお考えかをお聞きかせください。

【小川市長】

塾年式は、実際に市民の方から提案していただいたことを採用しています。

64歳や65歳の方にお集まりいただいて、大いに能力、個性を発揮していただいて、生きがいのある人生を送っていただくということです。

昔は、55歳が定年で、結婚して子供を育ててるとというのが第2の人生で、孫ができるころには人生が終わるとというのが普通でしたが、今や人生80年時代で、定年してから約20年あります。

この20年間を有意義に過ごすのが大切だと思っています。

第1の人生は学校卒業まで、第2の人生が結婚して家庭を中心の時代だとすると、第3の人生は定年後になります。

子供が自立し、定年後どうやって生きていくのかという真の自分の人生になります。

知識、経験という資産がたくさんあるわけで、そういった資産を活用して生きがいのある第3の人生を送ってもらうためのきっかけ作りをやっていこうと行っているわけです。

第3の人生のスタートを熟年式できらさせていただこうということです。

【会員】

60歳というのもよいのではないのでしょうか？

私たちの団体も活用していただけると。

【小川市長】

それは、熟年式とかかがやきスクールとかの運営、設営のほうもやっていただけるということですか？

【会員】

そうです。

50から65歳を対象にしたアンケートを行います、セカンドステージに向けて後押しにつながるようにしたいです。

健康問題や生涯学習、今後の生き方、過ごし方などから、退職後は地域活動をしたかなどがアンケートにいれてあります。

2008年までにまとめて報告をする予定です。

アンケートをしたことによって新たな出発ができるといいなと思います。

【会員】

市内には、小さな子供さんがみえるお母さんには、子育てサロンがあります。

シニアの人の楽しみなどのためには、プラチナサロンがありますが、団塊の世代にも場所の提供があってもよいのではないかと思います。

団塊の世代のステーションのようなものが大垣のまちの中にもあってもいいのではないのでしょうか。

もう一度、公けを担える世代として活躍したいのです。

【小川市長】

今年は昭和22年のかたが60歳の定年になられます。

再雇用、継続雇用される方も多いとは思いますが、社会や家庭の中でも生きがいを持ってがんばってもらいたいと思っています。

「団塊世代ステーション」は、今はまだ早いと思いますが、そのうちニーズ、要望が増えてくると思います。

今は、市民活動支援センターを活用してもらいたいと思っています。

今後の検討課題として心に留めておきます。

将来的には、団塊の世代のみなさんがそういった場所を活用して、文化事業、青少年の健全育成事業、緑化事業等に率先して参加していく時代がくるのではないかと思います。